



撰場城跡（千羽ヶ場）

本町で一番高い山城は大塔にある撰場場（千羽ヶ場）である。随分高く海拔348メートルである。仁野の善福寺の過去帳には、嘉吉2年(1442)大道庄官藤原三郎時実築城とあり、二代しか続いておらず短期間の城であったと思われる。

末近城、御調町の西部に位置し、大字植野にある、所の人^{すえちか}は末近を訛って「せじか」と言っている。「芸藩通志」によれば、末近四郎三郎の居所と記してある。末近四郎三郎はのち久井町へ居城し、天正十年(1582)備中高松城の織田・毛利の決戦に際し、毛利軍側の

後、城郭研究部会の力を借りて町内の山城についての全ぼうを明らかにしていきたい。

尚、田口副会長の協力を得て、雲雀、牛の皮城の図面を添付することができました。厚く御礼申し上げます。

(御調郡御調町本227-2)

釣糸を垂るるは父らしかたへにて

岸に遊ぶ子傘回しつづ

萩の姫殿の奥まで黒光り

魚商ふ路地を巡りて

春雷はしつこき冬を振り落す

ごとく轟く楠の木のう

戦争のみじめを知らぬ我が目にも

「戦」の字すらうとましく見ゆ

不足言ふ口の動きに目をやりて

ポン柑をむき袋ごと食ふ

須磨